

取扱説明書

日立電気洗濯乾燥機用

お洗濯キャップ

MO-F78

このたびはお洗濯キャップをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

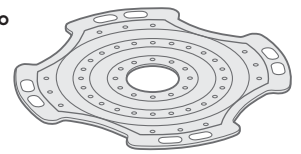
この取扱説明書では、BW-D7LV、BW-D6LV形電気洗濯乾燥機でご使用になる場合を中心に説明しています。
ほかの機種をご使用の場合は、電気洗濯乾燥機に付属されている取扱説明書をお読みください。

毛布コースで洗濯／洗濯～乾燥する

お洗濯の準備

洗濯・乾燥する量や種類により、洗濯・脱水槽への入れかたなどが異なります。
お洗濯キャップは下表に従い、正しくご使用ください。

- お洗濯キャップを使用せずに洗濯すると、洗濯物を傷めたり、本体が破損する恐れがあります。




	毛布	掛け布団	お洗濯キャップ
「洗濯」運転	2.2kg未満	－	使用しなくても運転できます。
	2.2kg～4.2kg	1.8kg以下	使用して運転してください。
「洗▶乾」運転	2.2kg未満	－	使用しないで運転してください。

「洗濯」運転の場合



洗濯できるもの・できないもの

■洗濯できる毛布

-  (弱い手洗いが良い)表示の毛布
- アクリル、またはポリエステルマイヤー毛布、タフト毛布、織毛布 (幅180cm×長さ230cm以下、1枚の重さが4.2kg以下)
- 電気毛布については、電気毛布の取扱説明書に従って洗濯してください。
(「洗▶乾」運転はしないでください)




■洗濯できる掛け布団

- 詰め物素材が化繊(ポリエステル)100%の掛け布団
掛け布団
・シングルサイズ 幅150cm×長さ210cm以下、詰め物の重さ1.8kg以下のもの
肌掛け布団
・ダブルサイズ 幅190cm×長さ210cm以下、詰め物の重さ1.8kg以下のもの
- 詰め物素材が羽毛の掛け布団で  (洗濯機による洗濯ができる)または  (弱い手洗いが良い)表示のもの
(例：肌掛け布団 詰め物の重さ0.5kgなど)



- 詰め物素材が羊毛のものや、カバー材質が絹のものは洗わないでください。
- ほかの洗濯物は追加しないでください。

■そのほか洗濯できるもの

-  (弱い手洗いが良い)表示のベッドパット、カーテン

毛布コースで洗濯／洗濯～乾燥する(続き)

お洗濯キャップを使用するときの入れかた〔毛布(2.2~4.2kg)または掛け布団(1.8kg以下)の「洗濯」運転〕

- 1** 毛布、掛け布団の角から、洗濯・脱水槽に少しずつ入れます。

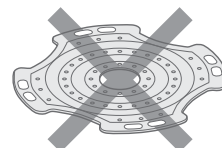


- 2** 掛け布団は中の空気を追い出すように、少しずつ入れます。




「洗▶乾」運転の場合

お洗濯キャップは使用しないでください。
乾燥の熱でお洗濯キャップが溶けてしまいます。



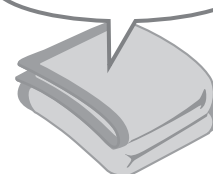
洗濯～乾燥できるもの・できないもの

■洗濯～乾燥できる毛布

-  (弱い手洗いが良い)表示の毛布
- アクリル、またはポリエステルのみやー毛布、タフト毛布、織毛布(幅180cm×長さ230cm以下、1枚の重さが2.2kg未満)
- 2.2kg以上のものは「洗▶乾」運転しないでください。(傷んでしまうため)

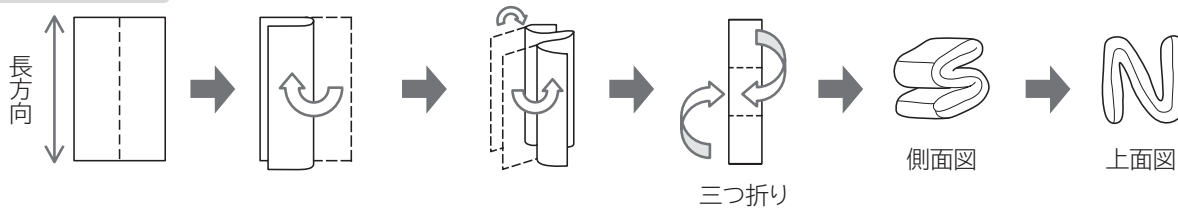
■掛け布団、電気毛布は洗濯～乾燥できません(傷んでしまうため)

2.2kg未満

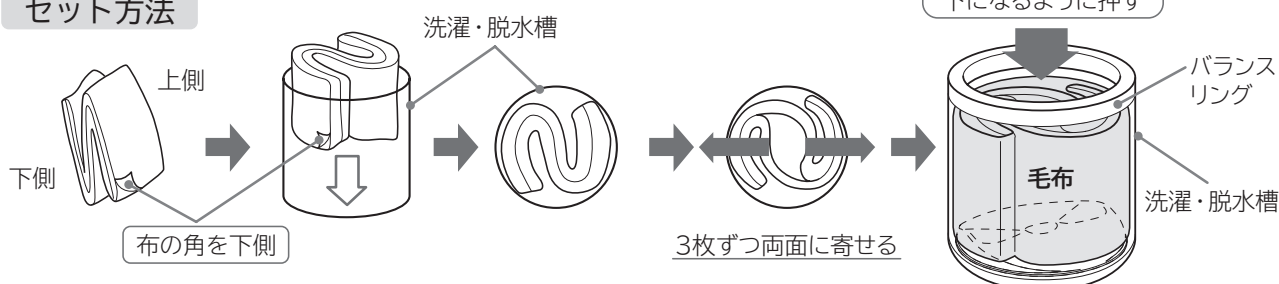


お洗濯キャップを使用しないときの入れかた(2.2kg未満の「洗濯」運転または「洗▶乾」運転)

折りかた

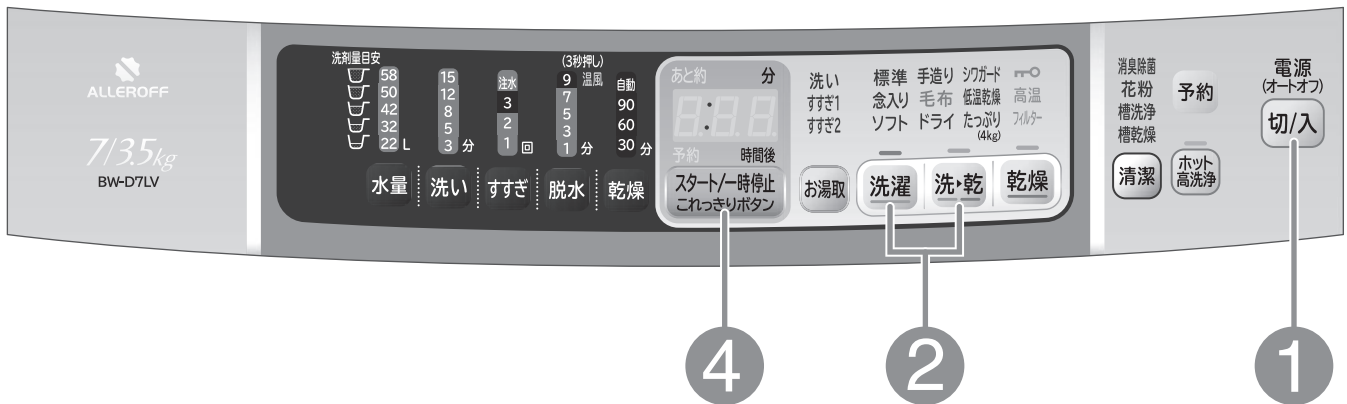


セット方法



- 毛布の角を下側にしないと、運転中に毛布を傷める恐れがあります。

使いかた



「洗▶乾」運転の場合は、お洗濯キャップを使用しないでください。

「洗濯」運転の場合

準備 水栓を開け、洗濯物を入れる

お洗濯キャップをセットする

1 切/入 を押し、電源を入れる

2 洗濯 を押し、「毛布」コースを選ぶ

- 水量を変更することができます。
- 風呂水を使用することができます。

3 液体洗剤を入れて内ふたを閉め、ソフト仕上剤を入れてふたを閉める

4 スタート/一時停止 これっきりボタン を押す

運転が終了したら、お洗濯キャップを外す

「洗▶乾」運転の場合

準備 水栓を開け、洗濯物を入れる

1 切/入 を押し、電源を入れる

2 洗・乾 を押し、「毛布」コースを選ぶ

- 水量を変更することができます。
- 風呂水を使用することができます。

3 液体洗剤を入れて内ふたを閉め、ソフト仕上剤を入れてふたを閉める

4 スタート/一時停止 これっきりボタン を押す

- 「洗▶乾」運転終了後、乾きムラがあるようなときは、毛布を折り返し、乾燥「ドライ」コースで再度乾燥させてください。

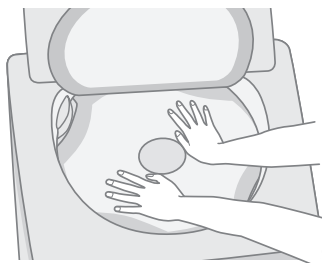
毛布コースで洗濯／洗濯～乾燥する(続き)

お洗濯キャップを取り付けるときは

- 1 お洗濯キャップを曲げ、凹部と洗濯・脱水槽の凸部(プラスチック)を合わせる



- 2 図のように、お洗濯キャップ全体を洗濯・脱水槽の中に入れる



- 3 中央リング部を持って、バランスリングのすぐ下まで引き上げる



お洗濯が終わったら

お洗濯キャップの取り外しかた

- 1 お洗濯キャップの手前側を押し下げる



- 2 中央リング部を図のように持ち、矢印の方向に曲げる

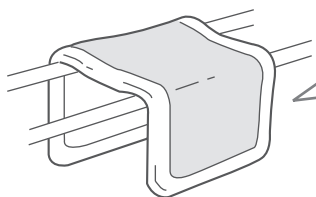


- 3 そのまま手前に引くように、持ち上げる



干しかた

- 風通しのよいところで自然乾燥させます。
(掛け布団の場合は、晴天の日で約4時間かかります)



□形に干すと、乾きが早くなります

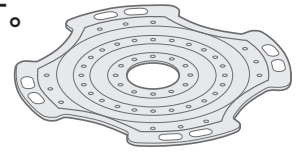
- 掛け布団は時々裏返すと乾燥がより効果的です。
また、時々詰め物をつまんでほぐすと、ふっくら仕上がります。
- 羽毛の掛け布団は、詰め物の片寄りをほぐしてから干すとふっくら仕上がります。
(羽毛の変質と側地の傷みを防ぐため、シーツなどを上に掛けて干してください)
- 毛布は湿っているうちに、ブラシで一方向に毛並みをそろえると、きれいに仕上がります。

ドライコースで洗濯／乾燥する

お洗濯の準備

■洗濯・乾燥する量や種類により、洗濯・脱水槽への入れかたなどが異なります。
お洗濯キャップは下表に従い、正しくご使用ください。

- お洗濯キャップを使用せずに洗濯すると、洗濯物を傷めたり、本体が破損する恐れがあります。








	洗濯量	お洗濯キャップ
「洗濯」運転	0.4kg未満	使用しなくても運転できます。
	0.4kg～1.2kg	使用して運転してください。
「乾燥」運転	0.4kg未満	使用しないで運転してください。

「洗濯」運転の場合

洗濯できるもの


衣類の取扱絵表示

 (弱い手洗いが良い)表示または、 (洗濯機による洗濯ができる)表示のもの
 (ドライクリーニングができる)表示と、 または  表示の組み合わせのもの

■上記の絵表示があっても、洗えないものがあります。
クリーニング店にご相談することをおすすめします。

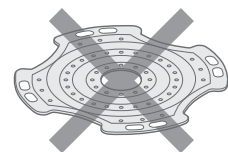
- セーター、カーディガン(ウールなど)
- スラックス、スカート
- ブラウス、シャツ、ワンピース(ポリエステルなど)
- 学生服、セーラー服

※  (水洗いはできない)表示のものは、洗濯機で洗濯できませんのでご注意ください。

 (溶剤は石油系のものを使用する)表示のものは、洗濯機は使用できません。

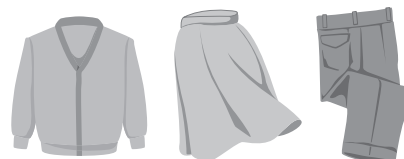
「乾燥」運転の場合

■お洗濯キャップは使用しないでください。
乾燥の熱でお洗濯キャップが溶けてしまいます。



乾燥できるもの

- ウールなどのセーター、カーディガン
- ウール、ウール混紡のスカートやスラックス
- ポリエステルなどのブラウス、シャツ、スカート
- ※ドライマーク付衣類でも上記のものは乾燥できます。
- 乾燥できる洗濯物の量は1枚です。
- 0.4kg以上の洗濯物は乾燥しないでください。





0.4kg未満

- 取扱絵表示および素材表示のないものは、クリーニング店にご相談することをおすすめします。

ドライコースで洗濯／乾燥する(続き)

洗濯物について

「ドライ」コースはかくはん翼を回転させずに、洗濯・脱水槽を回す槽回転水流で、 (弱い手洗いが良い)表示のデリケートな衣類や、 (ドライクリーニングができる)表示の衣類をやさしく洗い上げるコースです。

洗濯物に力をかけない洗いかたをしますので、前もって下記の前処理をしてください。

衣類の前処理

- しみやひどい汚れは早めに処理してください。
時間がたつと落ちにくくなりますので、洗濯前に部分洗いなどで処理をしておくことより効果的です。
- ボタンやしゅうがついている衣類は裏返しにしてください。
- ボタンやファスナーは閉めてください。

色落ちの確認

- 色落ちしそうな衣類は、あらかじめ、色落ちの確認をしてください。白いタオルなどに洗剤液を含ませ、衣類の目立たない部分に強く押し当ててタオルに色移りしないか確認してください。
色落ちがあった場合は、洗濯しないでください。
- 色落ちしやすい衣類(スカーフ、外国製の衣類など)は、十分に注意してください。

脂汚れ、しみなどを落ちやすくする

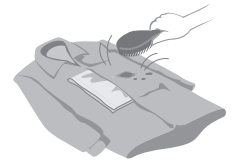
えり、そで口などの脂汚れ

- えり、そで口、すそやポケット回りの汚れは、洗剤の原液をつけて、ブラシで一定方向にこすってください。



しみ

- 衣類の裏にタオルを当て、洗剤の原液をつけてブラシなどで軽くたたいて落してください。



- 洗濯後、縮みが大きくなった場合のことを考えて、元の形に修正するために型紙を取っておくと便利です。

しみの抜きかたワンポイント

- 万一、衣類にしみがついた場合は、3倍濃度の洗剤液につけ置きしてください。
※上記対応でしみが抜けないときは、下記のように市販の漂白剤を使用してください。
- 漂白剤は、酸化型と還元型とに分けられ、さらに酸化型は塩素系と酸素系に分けられます。それぞれ、下記のような特徴があり、使えるものと使えないものがありますので、ご使用前に漂白剤の容器に表示してある注意書きをよくご覧になり、正しく使用してください。

・酸化型

酸素系(ワイドハイター、カラーブライト)：



色・柄物に使用できますが、粉末の場合は毛・絹には使用できません。

・還元型(ハイδροハイター)

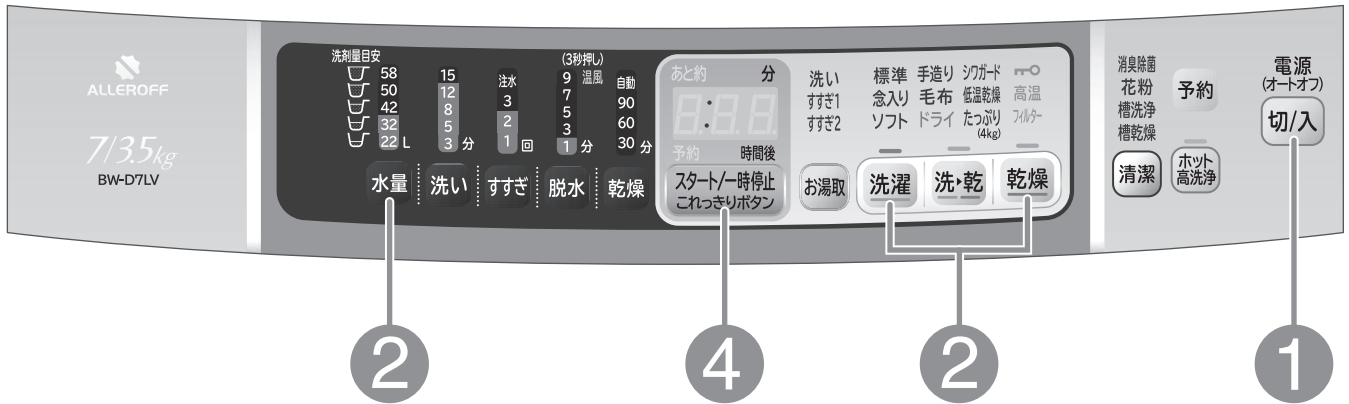
水中の鉄分で黄ばんだり、さびがついたりしたときや、塩素系漂白剤のためにワイシャツのえりの芯地が黄変したときに使います。

色・柄物には使用できません。

使用する洗剤

- 衣類の取扱絵表示が (ドライクリーニングができる)表示のものは、ドライマーク衣類専用の洗剤(液体)を使用してください。 (弱い手洗いが良い)表示のものは、中性洗剤(液体)も使用できます。
- 使用量は洗剤の表示に従ってください。
- 液体洗剤以外は使わないでください。

使いかた



「乾燥」運転の場合は、お洗濯キャップを使用しないでください。

「洗濯」運転の場合

準備 水栓を開け、洗濯物を入れ、
「洗濯」運転(0.4kg以上)の場合は、
お洗濯キャップをセットする

1 **切/入** を押し、電源を入れる

2 **洗濯** を押し、「ドライ」コースを選ぶ

■水量を変更することができます。
〈選べる水量は「32L(31L)」と「22L」です〉
〔()内はBW-D6LVの水量〕

3 液体洗剤を入れて内ふたを閉め、
ソフト仕上剤を入れてふたを閉める

4 **スタート/一時停止
これっきりボタン** を押し

運転が終了したら、お洗濯キャップを外す

「乾燥」運転の場合

準備 水栓を開け、洗濯物を入れる

1 **切/入** を押し、電源を入れる

2 **乾燥** を押し、「ドライ」コースを選ぶ

3 内ふた、ふたを閉める

4 **スタート/一時停止
これっきりボタン** を押し

●「洗濯」運転の場合、お湯や風呂の残り湯は使用しないでください。衣類の縮みが大きくなったり、入浴剤の色が移る恐れがありますので、水道水を使用してください。

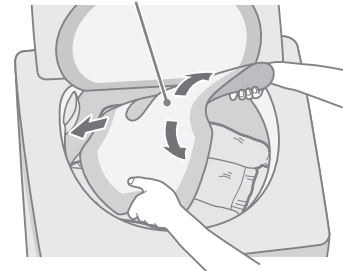
ドライコースで洗濯／乾燥する(続き)

お洗濯キャップを取り付けるときは

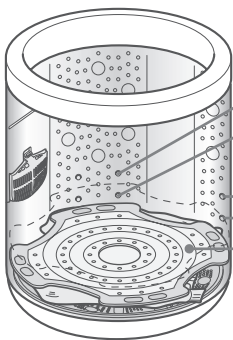
取り付けかた

お洗濯キャップの凹部と洗濯・脱水槽の凸部(プラスチック)を合わせて、2つ折りにして洗濯・脱水槽に入れる。

お洗濯キャップ



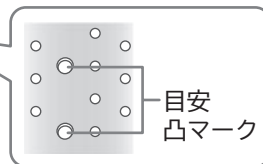
取り付け位置の目安



使用する水位	洗える量
32L(31L)	1.2kgまで
22L	0.5kgまで

〔()内はBW-D6LVの水量〕

目安凸マーク
お洗濯キャップ



- 洗濯物はきちんとたたんでから、洗濯・脱水槽に均一に入れて、お洗濯キャップでおさえてください。

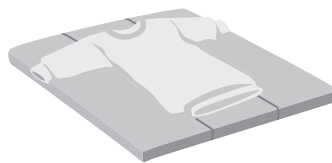
お洗濯が終わったら

お洗濯キャップの取り外しかた

取り付けたときと同じように、洗濯・脱水槽の中で2つ折りにして引き出す。

干しかた

- ウールなどのセーターは、形を整えて日陰で平干しにします。
- 風呂のふたなどを使って平干しにすると形崩れが防げます。



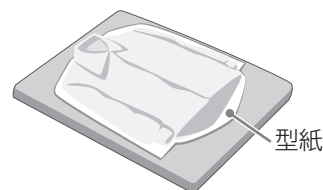
- ブラウスやワンピースは形を整えて日陰でハンガーに干します。

仕上について(縮み・形くずれの直しかた)

- スチームアイロンを軽く浮かせてスチームをかけ、形を整えます。



- スチームをたっぷり当てたあと、洗濯前にとっておいた型紙に合わせて、元の形まで伸ばし、形を整えます。



◎日立アプライアンス株式会社

〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12